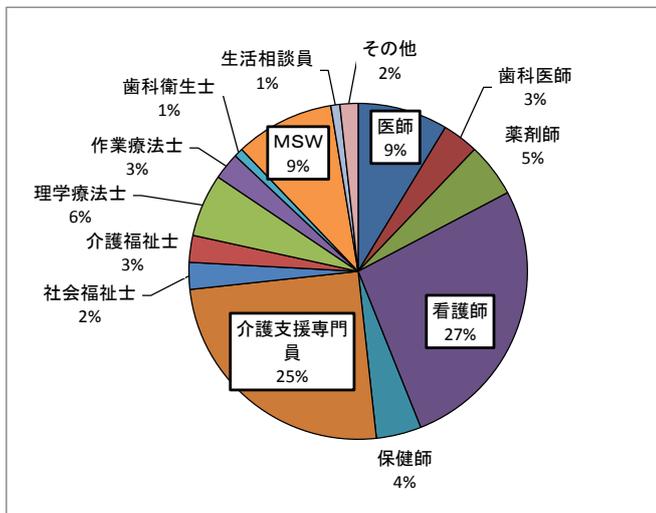


◆平成29年度 第6回在宅医療コーディネーター養成研修会・公開講座(H30. 3. 31)  
アンケート集計結果(回答数110人)

問1 あなたの職業について、当てはまるものに○を付けてください。(主となる職種を一つ)

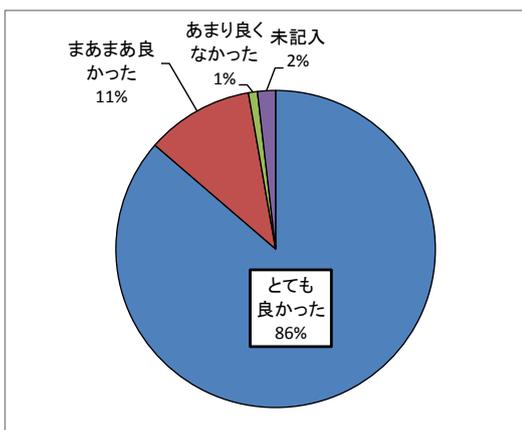


職種	人数
(1) 医師	10
(2) 歯科医師	4
(3) 薬剤師	6
(4) 看護師	31
(5) 保健師	5
(6) 介護支援専門員	29
(7) 社会福祉士	3
(8) 介護福祉士	3
(9) 理学療法士	7
(10) 作業療法士	3
(11) 言語聴覚士	0
(12) 歯科衛生士	1
(13) 精神保健福祉士	0
(14) MSW	11
(15) 訪問介護員	0
(16) 生活相談員	1
(17) 事務	0
(18) その他	2
総計	116

その他  
・マッサージ師  
・医療関係

※一部重複あり

問1 講演の感想をお伺いします。(当てはまるものを○で囲んでください。)



とても良かった	95
まあまあ良かった	12
あまり良くなかった	1
全く良くなかった	0
未記入	2

上記の理由をご自由にお書きください。

- ・個人、個人・一人、一人の人生に寄り添う事の大切さを教えていただいた。 9
- ・いのちと命のバランスの大切さを感じました。 8
- ・感動した 6
- ・勉強になった 6
- ・いのちと命のバランスを取りながら、その人らしい生き方を支援していきたいです。 5
- ・生命体としての命、ものがたれるいのちのバランスをどこでとるか、バランスをとってあげるか。 4
- ・今後の人生、仕事に何か生かしていきたいと思います。 4
- ・いのちと命、すごく身にしみました。 3
- ・興味を持た 3
- ・在宅の取り組みの具体的な話が聞けて良かった。 2
- ・命といのちの捉え方、考え方について考えさせられたので、これからの仕事に取り組む姿勢を見直す機会になった。 2

・ものがたれるいのちと生命体の命、改めて考えさせられました。今後、介護と医療の連携を繋ぐ役目として活躍できたらと思います。

2

・幸せそうで印象的でした。

・患者様、利用者様のバックグラウンドをこれまで軽視していた点を反省しました。新人の頃のようにもっと一人一人の人生を考えて対応していこうと思います。

・在宅で生活することが、本当の喜びに繋がるように地域に溶け込んで活躍する姿を見て、今後の自分にできることを取り入れて努めていきたいと感じた。

・ニーズを知るためには、その人のルールに入る。そのためにはまず、自分のルールから出なければなりません。難しいけど大切なことだと思いました。

・医療支援者(医師も)が利用者の生活の中へカメレオンのようにとけこみケアをすることが、その方のものがたりに寄り添う大切な一歩になるんだなと感じました。それはとても難しいことだと思いますが、実践されている先生は素晴らしいと思います。

・「在宅医療」でも医療面を重視した講演が多い様に思えます。今回の講座はその患者を中心とした在宅の方向性の必要性がよく分かった。

・生きさる「生」を支えるという言葉が大変心に響きました。いのちと命深いです！

・他県の地域包括ケアを知ることができた。

・以前佐藤先生の本を購入し、読み感銘したので、実際に話が聞けて良かった。

・「いのち」と「命」等、その人にとって、何が一番必要なか考えること。また、その考えを、他に押し付けることなく、柔軟に対応していくことを学んだ。

・先生の熱いハートが伝わってきて良かったです。自分には何が出来るだろうか…と考えさせられました。エネルギーをいただいた気がします。

・退院するまでサポートするのが常なので、自己療養についてお話が聞く事ができたのは貴重。ものがたり、いのちという聞き慣れている言葉が別段と感じれた。

・医師が責任をとらなくても、皆がその人の命をいのちとして最後まで輝かそうとできる世の中になるといいですね。

・終末期をどう過ごすかを常に考えています。実際に自分らしく過ごすことの大切さ、大変さを感じつつ、利用者様に関わっていこうと思います。

・漢字の「命」とひらがなの「いのち」は大変新鮮なテーマでした。

・スライドの完成度が高かったし、聞きやすかった。在宅の利用者に関わる上で大切なことを学べた。

・医療の原点、大切にしたい視点だった。

・実際の患者さんのものがたりを動画を用いて説明してくださり、分かりやすく、考え深いものがありました。

・先生が「生きている間にできることを」と言われており、振り返ることも大切だが、また明日から関わる患者さんに何が出来るかを考えたい。

・その人の最期をどう過ごして、どうやってサポートそてあげれるのか考えるいい機会となりました。

・診療所でMSWをしています。もっと自分にできることはないか？とよく考えています。「つなぎ人」としてできること、ヒントをもらえた気がします。

・久しぶりにこういった講演を聞き刺激になった。

・人が人と関わり、いのちを支えていくこと、そこで互いにいのちを通した温かい交流ができること、そんなことを大切にできるようにしていきたいと思いました。

・本当に素晴らしい講演内容でした。もっと多くの医療関係(現場で働かれている先生)に知ってもらいたい内容でした。

・その人のものがたり、スライドの中の表情を見て、とても心が熱くなりました。

・改めて在宅の良さを感じた。

・いろんなことを行う際に、リスクを考えて何にもできないより、その人の希望通りに行うことの方が、幸せだなと感じました。典型的な通常の医療を行っている方ではなく、本当に高松でもされている方がいないような、より地域に密着した医療・介護、本人にその人の尊厳を大切にされている方の講演はとても良い刺激になりました。命だけでなく、いのちを考えていきたいです。

・命といのちのバランスを多職種で共有し、支えていくことが出来るよう、顔のみえる関係作りと、それぞれの職種への理解を深めていきたいと思っています。

・いつも現場で考えていることを「命」と言う言葉で表現していただき、私自身の心の中にもすーっと入ってきました。

・いのちと命の違いについて考えたことがなかったが、そのような視点をもって、利用者や地域の方々に関わってみたいと感じた。

・いつも仕事の中で「死生観」や色々な面において、私の明日の活力となりました。

・在宅、地域医療の必要性をとっても感じていますが、なかなか依頼がなかったり、どうしていいのかわからないところがあります。どのような立ち位置でいたらいいのかわからなかったのも、とても参考になりました。

・ものがたれるいのちについて、とても考えさせられる良い内容だった。スライドのおばあちゃんの笑顔が全てをものがたっていたように思う。これからの通所介護の中で利用者さんのいのちに向かいあったケアが出来るように頑張ろうと思った。

#### 御意見

・香川にもこういう寄り添う気持ちのあるDrが増えるべき。医師の考え方1つでその人の最期が大きく変わるから…在宅を担う医師が訪看としっかりと手を結び支えることのできるシステムを地域で考え実施していく必要がある。

・本人がどうだったのか、もう少し声を聞きたいと思いました。また、介護の姿が見えてこなかったです。「はあちゃん」という言い方が私の感覚にはあいませんでした。実践については素晴らしいと思いました。

・本人、患者、家族、その人たちへの入り方が難しい。人が多いと考え方が複雑になり、意思決定が出来ないまま、進んでしまうことがある。困っている。

・資料のスライドがほしかったです。

## 問9 今後、住み慣れた地域で、在宅医療や介護を一体的に提供できる体制を構築するために、何が重要だと思いますか。

### 情報共有、理解

- ・相互理解です！
- ・在宅医療への理解、医師はもちろん市民も。
- ・情報共有。
- ・地域を知ることではないかと思います。
- ・相談できる人がいるということを知っている。知ることができる(分かり易い)環境。
- ・だれでも相談できる医療。
- ・住民への知識と情報を伝えること。
- ・地域にどの様な機関があり、どの様なサービスができるのか、資源を知る事。もっと情報がオープンになる事。(各機関の特徴なども含めて)

### 交流や繋がり、研修会

- ・病院スタッフに対する在宅医療の研修。
- ・専門職同士の顔の見える関係づくり。医師会と行政の協力。
- ・参加している人達が集まること。そして意見交換できることがあればいいな！
- ・地域との結びつきの再構築。地域の行事参加。
- ・コミュニティ
- ・人と人のつながり、関係性、昔のような近所付き合い、地域活動参加。
- ・各地域での交流会にて在宅医療や介護の紹介を行うセミナーや講演の充実(まずは知ってもらうことが大切だと思います)
- ・エリアミーティングを多職種でしたい。
- ・ネットワークづくり。
- ・休日に地域で話し合う機会を作ることかと(在宅支援診療をしているので、なかなか時間はとれませんが…)
- ・多職種との交流、話し合い、市民向けのフォーラム、連携ツール。
- ・在宅医療と介護が多職種、他事業所との関わり(交流)のもてる場(機会)があればいいと思います。
- ・コーディネーターを各地域(ブロック化)でまとめて、それぞれでミーティング等の活動を開始してみようか。
- ・地域での活動内容等の把握し、参加していくことも大事かと。
- ・病院の医師達にも、退院後の生活、それぞれの違う生活があること、それに沿った関わりがあることを学んでほしい。命を助ける医師に在宅のこと、いのちのことを知ってもらいたい。
- ・多職種連携→情報交換の場の充実、在宅医療を実施している機関の窓口を市民に情報提供する(分かりやすい方法で)

### 医療機関、場所

- ・医療依存度の高い方の在宅医療機関や在宅介護事業所が充実した方が良い。拡充しないとなかなか在宅での生活が困難である。
- ・ものがたり診療所のようなものが高松にも出来たらいいなと思います。
- ・対象者と向き合う場、話を聞く場所。
- ・在宅医療拠点病院や在宅介護総合事業所のようなものが、各地域毎に必要。
- ・ものがたりを考え支援してくれる在宅医療機関。
- ・医療側、介護側を繋ぐ場(問題点、悩み事)が話し合える場があればと思いました。
- ・地域に溶け込む相談所ができるようにやってみたいと思います。
- ・本日講演で紹介のあったような、集える場、皆が地域の事について語れる場所作りが必要だと強く感じました。
- ・困った時にどこに相談していいのかわかっている方々が本日の佐藤先生が実践されているような、地域での総合相談窓口が必要だと感じました。
- ・在宅医療をしている病院や診療所を増やしてほしい。東讃地域には少ない気がします。
- ・在宅診療を実施してくれる医療機関の充実。チームアプローチ多職種がしっかりと連携できること(人材の育成)地域資源の充実、家族への支援体制の充実。

### 人

- ・在宅を本当の意味で、患者や患者の立場にたって診療してくれる在宅診療医の先生が必要、在宅診療医の養成。訪問看護師のレベルアップ。
- ・佐藤先生のような、いのち・命のバランスのお持ちの先生が必要と思いました。
- ・在宅医療(往診を含む)を実施する機関(特に在宅医)の人材(医師)と看護師などの人数確保。傾聴や寄り添いたいと思っても、日々の業務に追われて時間がないのが現実だと思う。
- ・在宅医の存在。
- ・在宅医療に従事できる医師を増やす。在宅医療を実施する機関や場所、医師名をはっきりさせる。
- ・佐藤先生みたいな考え方を持った医師。おおよそ金儲けを考えている医師、経営者が多すぎる。
- ・往診できる開業医、職員の確保。スムーズな情報提供ができる為の雛形。
- ・在宅を支える人達(専門家だけでなく)を育てること。介護・診療報酬など制度の充実。
- ・在宅医療を実施する機関、人数の充実、確保、その(在宅医療)の方向へもっていきける医療者の充実。
- ・在宅医療を実施する機関の充実、市民向けの啓発、医療と介護を結びつけることが出来るコーディネーターが必要だと思います。医師も少ない地域の中でのこのような考え方(在宅医療)がこれから必要だと感じます。
- ・地域で旗振りをしてくれる人材。

## 啓発活動

2

- ・市民への啓発。
- ・従事者と市民両方の啓発の充実。
- ・住民への啓発ができなければ、発展はあり得ない。
- ・病院について知ってもらう会。啓発活動。
- ・多職種間の連携、在宅医療や介護についての理解。そのための啓発活動。
- ・一人一人のいきていく事への意識を持っていくことだと思います。そして私たちは啓発活動を続けていかなければならないですね。

## 体制、サービス

- ・在宅ケアを支える医療及び介護サービスの充実。
- ・リハビリテーション専門職を活用した自立支援への取り組み。
- ・病院から在宅へスムーズに移行するための仕組みや、中心となる役割をもつ者などを作っていくことが大切だと思います。
- ・診療・介護報酬のひき上げ。
- ・在宅医療を実施する機関の充実。プラス地域のDrが協力して、在宅医療を提供できる体制づくり(一人の開業医が24時間365日を負担するの大変なので)
- ・サービスの明確な役割。
- ・医療・介護・福祉の連携、当印から退院する時、自宅には帰れない人から介護保険が使えない若い年代の患者さんにどのようなサービスがあるのかとても悩みます。
- ・個々事例検討の積み重ねが体制作りとなると思います。同じフォーマットで多職種連携からなる事例検討を続けていくことかと思っています。
- ・介護利用の施設利用者にとって分かり易くコーディネートできるシステムが必要か。例えば軽費老人ホームABC、ケアハウス等。
- ・地域社会の連携の再構築
- ・在宅でも看取りができること。
- ・地域での見守り。

## その他

- ・家族に(本人を取り巻く人達に)本人の希望の変化を読みとってもらうようにする。社会的同意が得られるような方向を進めてゆきたいものである。
- ・仕事の枠を超える勇気をもつこと。それが行える環境に自分の身を置くこと。
- ・スタッフ全員が同じ方向、同じ姿勢で対応すること。
- ・薬剤師にかぎって言うと、圧倒的な経験不足。知識もですが。あと、家族の方も在宅をギリギリまで避ける傾向がある気がします。他人を家に入れるのに抵抗もあるのかと思います。そのようなものがあるのも知らないのかも。そういうことでいうと啓発も大事ですね。
- ・地域内のネットワークをもっと掘り下げて強くすべき。今の高松は数はたくさんあるけど、横で手を繋ぐことをしていけばそれが強みになる。恐れずみんなを進めたら、とても小さな島国だけとても大きなネットワークをもっている地域になるのではないかと思います。
- ・ケアを受ける側に話が多いが、現実としては実際にケアを行うナースやヘルパーやCMのフォローがあまりできていない。志の高い支援者が頑張りすぎてバーンアウトしてしまうケースは多い。長期的に在宅ケアを考えるならば、支援者のワーク・ライフ・バランスを見直す必要がある。
- ・在宅医療・介護連携については今に始まった事柄ではなく、多くの専門職が日々努力して道を作っています。その上で「ここ」というポイントを見極め今後必要な部分の追及、研究、実践が必要と思いました。